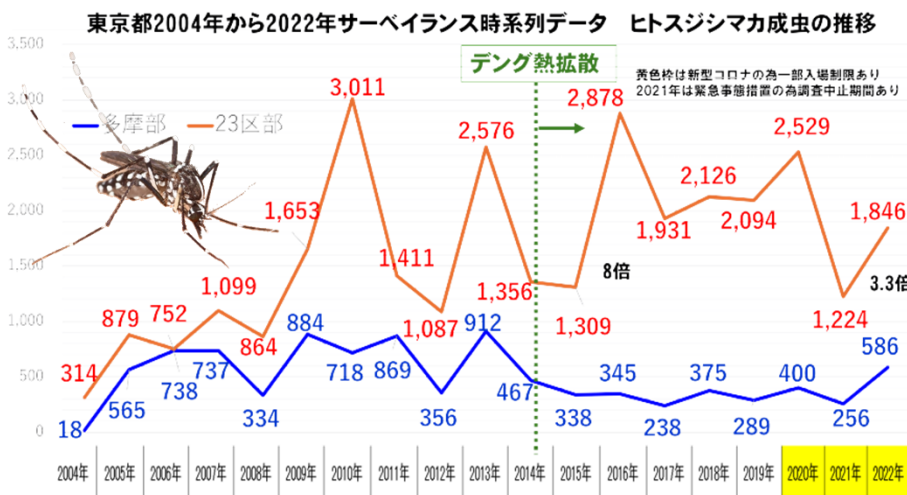


媒介感染を断つ＝人の居る所のヒトスジシマカの個体数を減らす

皆様へお願い申し上げます。

訪日外国人が訪れる公共施設、観光名所、ホテル、旅館、飲食店街、コンビニ、スーパーなど、すべての建物には雨水桝があります。しかし、現状ではこれらの場所が蚊の養殖場となっています。新型コロナの教訓を活かし、防げる感染症を絶対に拡散させないことを合言葉に、皆様のご協力をお願いいたします。特に設計士やコンサルタントの皆様には、新設や改修の際に雨水の集排水路から蚊の出入りを完全に防ぐ対策をご提案いただきたいです。具体的には、建設地にある雨水桝やU字溝に**極細分別集水化**したグレーチングを設置することで、蚊の出入りを防ぐことができます。この対策は同時に落ち葉や土砂の流入対策にもなりますのでSDGs3番と14番を同時に改善できます。グレーチングの極細分別集水化は、人間のマスクと同じように効果的な対策です。次世代に負の遺産を残さないために、ぜひともご理解とご協力をお願いいたします。また、この対策を実施したことを共有することで、普及速度が早まり、蚊の個体数は確実に減り、感染リスクが低くなります。施工後の写真を共有いただくと幸いです。

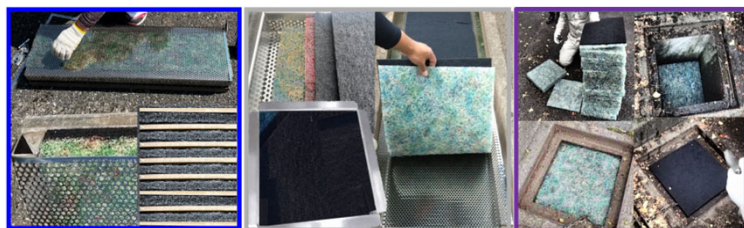
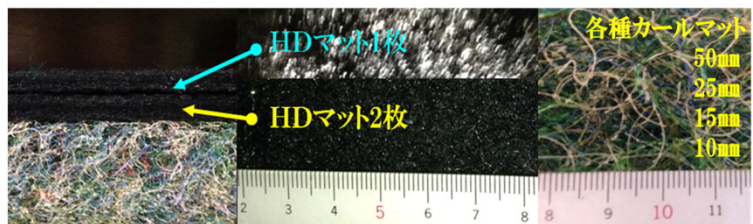
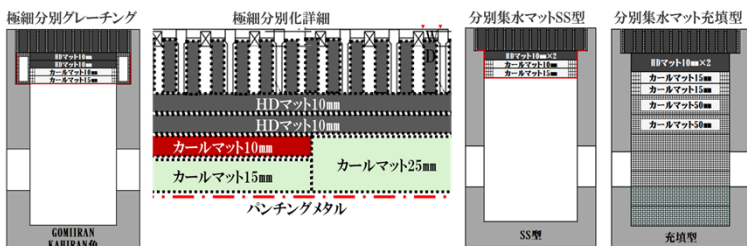


東京都のヒトスジシマカの成虫数の推移を時系列で見ると、2014年の代々木公園でデング熱が拡散した際には、23区部の個体数が少ない時期に拡散が起きました。現在の推移から考えると、予防効果は無く、感染症が持ち込まれば、いつでも拡散が可能な状態が続いていると推測されます。2016年にブラジルから世界的に広がった**ジカウイルス**も、ヒトスジシマカを介して感染するため、現在も注意が必要です。特に、外国人が多く訪れる23区部は、多摩部の3倍以上のヒトスジシマカが生息しているため、感染リスクが常に高い状況です。

ジカウイルスの恐怖：国立感染研究所によると、ブラジルでジカウイルスが流行した際、感染した妊婦から生まれた子供に小頭症が多く見られ、ギラン・バレー症候群やその他の神経症状も報告されたとあります。ジカウイルスは軽い症状で済むことがある一方で、重篤な症状や合併症を引き起こす危険性も高い感染症です。ジカウイルスの輸入感染を許せば、身体障害者が増える可能性が高まり、自治体や子育て世代にとって重大な危機となります。障害を持つ子供たちが増えれば、医療や福祉、教育、そして親世代のケアなど、多方面での支援が必要となり、自治体の財政や支援提供能力に大きな負担がかかります。しかも妊娠を計画している人や妊婦は、ジカウイルス感染で人生が左右される可能性があります。無防備な状態で公園や人が集まる場所に行くことが多いため、感染リスクが高いです。また、訪日外国人も観光のため無防備です。したがって、社会全体で蚊媒介感染を防ぐ街づくりを進めることが重要です。



グレーチングの極細分別集水化：極細分別集水化は、極細分別を担うHDマット10mm2枚と、空間寸法を維持するカールマット10mm～50mmを、敷設場所や敷設型式で変わる空間維持の適寸に合わせ選択し堆積要因の流入と生物の出入りを防ぐ維持管理方法 NETIS登録No.KT-160137-VR：NeTIDa登録No.1701005



分別集水マット、極細分別グレーチングの詳細
下記までお問い合わせください。

一般社団法人 産学技術協会
蚊媒介感染症拡散の無い街づくりの会 担当須田
E-mail : aiuto_lab@sangaku.org
お急ぎ：090-3003-4341